



後期が始まりました

10月2日(金)より後期が始まりました。1・2年生にとっては今が1年間の中間地点になりますが、多くの3年生にとっては、これから本格的な受験シーズン突入となります。

3年生においては、先日105名分の「大学入学共通テスト」志願票を発送しました。共通テスト元年となる今年の試験に備えてしっかり対策をしてください。また、推薦入試校内選考会により学校推薦型選抜の受験者(大学61名・短大7名・専門学校31名)が決定し、受験者は面接や小論文などの対策に取り組み始めています。近年、受験の出願手続きをインターネットで行う学校が増えていることに加え、今年は新型コロナウイルス感染防止の観点からオンラインでの面接試験に切り替える学校が出てくるなど、受験の環境が大きく様変わりしています。受験生の皆さんは、情報を確実に入手し不備のないようにしてください。更に、就職希望者13名は応募書類の発送を済ませ、16日からの入社試験に臨むことになります。

1・2年生は、5日にスタディーサポート、11月初めには進研記述模試が行われ、自分の学力を確認することができます。また、2年生は「コース選択」、1年生は「文理選択」の時期になり、本格的に進路研究を進める段階になります。将来を考えることによってこれから学ぶべき方向性が明確になります。科目の苦手意識のような目のことだけにとらわれるのではなく、しっかりと情報収集をした上で保護者の方・先輩・先生など、周囲の人にも相談しながら検討するようにしましょう。

《10月の進路関係行事》

3日(日)	実用英語検定	20日(火)	進路ガイダンス(1年)
5日(月)	スタディーサポート(1・2年)	25日(日)	夢ナビライブ
10日(土)	ベネッセ駿台模試(3年)	30日(金)	道德公開授業
13日(火)～15日(木)	定期考査Ⅲ	11/2(月)	進研模試(1・2年)
17日(土)	土曜課外⑤(1・2年)		

☆ 学校推薦型選抜について

大学全体の9割以上が実施している一般選抜に次ぐ規模の選抜方式です。一般選抜との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」や検定・資格等といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの大学では、「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています(近年、他大学との併願が可能な併願制も増えてきています)。推薦入試を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。

【指定校推薦と公募推薦の違い】

指定校推薦		大学が特定の高校を指定して実施する入試方式。「合格率はほぼ100%」という特徴がある。(近年、準備不足のため不合格となる例が出ている) 勉強や部活動の成績などを評価する。選考は小論文と面接のみの場合が多い。 * 主に私立大で行われ、自分の在籍する学校が指定校になっていなければ受験できない。
公募推薦	一般	大学毎の出願資格を満たしており、出身高等学校の校長から推薦された生徒が受験可能。評定平均値に基準があることが多い。選別方法は書類審査の他に面接や学科(能力)試験、面接、小論文などが必要となることが多い。 * 高校の推薦基準と大学の出願条件を満たしていれば、応募できる。国公立大学を含め多くの大学で行われている。
	特別	スポーツや文化活動における実績などが評価される。評定平均値に基準があることは少ない。

【推薦入試対策ポイント】

○小論文

- ・志望校の問題タイプ、出題傾向をチェックしよう。
- ・できる限り多くの過去問を解き先生方に添削してもらおう。同じ問題でもベストの文章が書けるまで何回か書こう。
- ・進学希望の学科に関連したテーマ、社会トピックスには関心を持とう。

○面接

- ・志望理由は必ず聞かれる。明確に答えられるようにしよう。
- ・言葉遣いやマナーも大切。模擬面接の練習は限られた回数で設定されているが、不安があれば個人的に先生にお願いしてみよう。

○書類審査・学力検査

- ・提出書類は楷書で丁寧に書こう。コピーした紙に下書きをし、先生のチェックを受けてから清書すると安心。
- ・志望理由書では、その学問を志したきっかけ・その大学を志望する理由・入学後の抱負や将来の希望進路などを明確にかつ具体的に書くこと。必ず先生にお願いし、構成や用事など不明瞭な箇所を指摘してもらおう。

☆ 志望理由書とは ～1年次から意識してほしい～

志望理由書とは「なぜその学校に入りたいのか」をまとめた書類です。総合型選抜や学校推薦型選抜、一部の一般入試で提出を求められるものです。最近では、早い段階から準備を始める傾向があります。志望理由書では「自分が将来どんなことをやりたいのか」「そのために志望する大学・専門学校などでどんなことを学びたいのか」「同じ分野の学校がほかにもある中でその学校を選んだ理由は何か」といった項目が必須となります。目指す大学・学部について具体的に調べなければ書けないので、その作業の過程で今まで漠然としていた将来の進路が明確にデザインされていきます。それが大学で何を学びたいか、その学びを通して社会でどんな仕事をしたいかを確認することにつながります。自分の将来が明確になり、結果的にそれに向かって集中して勉強をする大きな動機付けになります。

【合格できる文章のポイント】

- ① 相手（受験先）を知り尽くすこと
- ② 自分の適性を具体的に述べること
- ③ 明確な将来像を示すこと

☆ 進学情報 ～私大入試が変わる～

大学入学共通テスト（旧センター試験）導入元年となる 2021 年度入試。これまでの一般入試・AO 入試・推薦入試もそれぞれ一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜と名称が変わり、内容についても変更される部分があります。更に、6 月に文科省から通知された令和 3 年度大学入学者選抜実施要項には、2021 年度入試について新たな変更内容が記載されています。

- (1) 総合型選抜（旧 AO 入試）は出願・合格発表の日程が大きく後ろ倒しに、学力考査も必須に。

旧 AO 入試は、8 月 1 日から出願が開始され早くに合格内定が決まる点が人気でしたが、総合型選抜は、出願期間が 9 月 15 日から、合格発表は 11 月 1 日以降となります。もう一つ大きな変更点は、学力考査が必須化されることです。これは筆記試験に限らず、口頭試問やレポート、検定試験成績提出など様々なものが考えられます。

- (2) 学校推薦型選抜（旧推薦入試）も学力考査が必須に、合格発表も後ろ倒しに。

学校推薦型選抜も総合型選抜と同様に学力考査が必須化されます。また、出願開始は 11 月 1 日から、合格発表については 12 月 1 日以降となりこれまでより遅くなります。公募制推薦を考えている人にとっては、万が一、不合格になった場合は一般選抜の試験日まであまり日数がないので、ある程度一般選抜についても考えて準備を進めた方がよいでしょう。更に、指定校推薦・公募制推薦共に、合格内定後にレポート提出や入学ガイダンスの受講、一般選抜試験・共通テストの受験などを求める大学が増えてきています。

- (3) 一般選抜は大きな変更はなし、「主体性」を見る動きも。

一般選抜については大きな変更点はなく、2 月から始まる入試でテストの点数が高い人が合格というこれまで通りの内容で推移するでしょう。一方で、一部の私大を中心に高校時代の活動内容を出願時に添付させる大学が多くなりそうです。

